キャッシュフロー計算書における「営業活動」「投資活動」「財務活動」の区分は確かに覚える量が多くて大変ですが、\*\*分類の考え方（判断基準）\*\*さえ押さえれば、応用情報技術者試験などでも正しく判断できます。

**🔹営業活動によるキャッシュフロー（Operating CF）**

**✅判断基準：**

「本業での稼ぎに関係する現金の出入りか？」

* 商品を売って代金をもらう
* 給料や仕入代金を支払う
* 営業に関連する利息や配当金の受取（日本基準）
* 営業に関する支払利息（日本基準）

🎯つまり、「企業の本業」で日常的に発生するお金の動きが対象です！

**🔹投資活動によるキャッシュフロー（Investing CF）**

**✅判断基準：**

「将来の利益のために資産を取得・処分した現金の出入りか？」

* 固定資産（土地・建物・設備など）の購入や売却
* 有価証券（株式・債券など）の取得や売却
* 貸付金の支出、貸付金の回収

🎯言い換えると、「お金を使って未来の利益のタネをまく」イメージです！

**🔹財務活動によるキャッシュフロー（Financing CF）**

**✅判断基準：**

「資金調達や返済に関する現金の出入りか？」

* 借入金の増減
* 株式の発行による資金調達
* 配当金の支払い
* 社債の発行・償還

🎯つまり、「会社のお金の出どころ・返しどころ」に関係する動きです！

**🌟覚えるコツ（迷ったときの順番！）**

1. **営業活動か？（日常業務）** → YESなら営業CF
2. **資産の購入・売却か？（将来の投資）** → YESなら投資CF
3. **お金の調達・返済か？（資金のやりとり）** → YESなら財務CF